

めかじき中西部太平洋条約海域

評価対象種：メカジキ(小笠原諸島海域)



令和7年4月

資源の水準と動向「高位・横ばい」

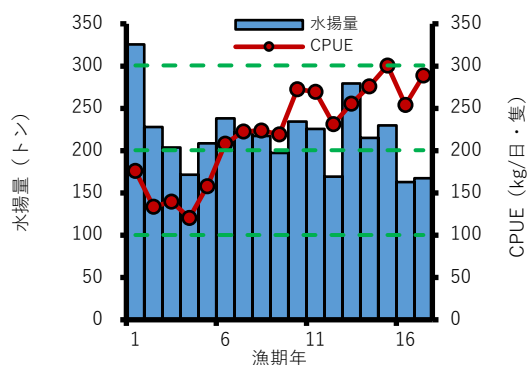


図1 水揚量とCPUEの推移

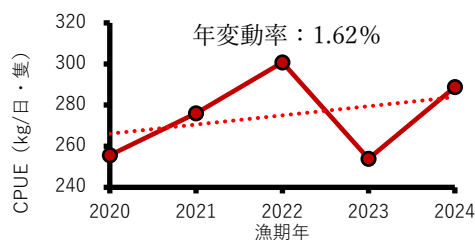


図2 立縄釣漁におけるCPUEの年変動率

2008年以降の小笠原諸島海域におけるメカジキの水揚量は、2008年に326トン記録した後は、200トン台で推移していた。2024年は167トンであった(図1)。CPUE(立縄釣漁1日1隻あたりの水揚量)は2011年以降増加傾向にあり、直近5年間は253~300kg/操業・隻で推移した(図2)。

本資源評価票での資源量指標値はCPUEとした。2024年における資源水準は、CPUEが最大値となった2022年の300kg/操業・隻の2/3以上である288kg/操業・隻であったため「高位」とした(図1)。

資源の動向は、直近5年間のCPUEから算出した年変動率が1.62%であり、年間±5%以上の増減でないため「横ばい」とした(図2)。

生態学的特性

- 分布・回遊：日本近海では、夏季に親潮域から黒潮続流域にかけての索餌域に分布し、冬季には北緯30度以南の産卵海域に移動する¹⁾。
- 年齢・成長：1歳で眼後叉長(眼の後縁から尾叉までの長さ)100cm、2歳で125cm、3歳で150cm程度に成長し、メスの方が早く大きく成長する²⁾。
- 成熟・産卵：小笠原では5月から6月にメスの生殖腺が発達し、稚魚も確認されたことから、産卵場の一つとして考えられる³⁾。
- 被捕食関係：アカイカなどイカ類やハダカイワシなどの魚類を主に捕食する³⁾。

東京都におけるメカジキ漁

- 漁業：小笠原諸島海域での漁獲が多い。小笠原諸島海域では東京都漁業調整規則に基づく許可漁業(かつおまぐろ釣り漁業)として周年操業が行われており、主要な漁獲対象種となっている。
- 漁法：主に立縄釣により漁獲される。
- 管理：漁業許可における制限措置や許可条件の中で、操業隻数や使用可能な漁具の本数に上限を設けている。また、母島では東京都資源管理方針に基づく資源管理協定を策定し、自主的資源管理措置(体長制限や漁具制限)に取り組んでいる。

- 1) 田中優平・山口邦久. 2017. 北西太平洋におけるメカジキ *Xiphias gladius* の水平・鉛直遊泳行動. 日本水産学会誌, 83(6): 961-970.
- 2) DeMartini, E.E., J.H. Uchiyama, R.L. Humphreys Jr., J.D. Sampaga, and H.A. Williams. 2007. Age and growth of swordfish (*Xiphias gladius*) caught by the Hawaii-based pelagic longline fishery. Fish. Bull., 105: 356-36.
- 3) 山口邦久. 2011. 小笠原諸島海域におけるメカジキの生態と漁業, 東京都水産海洋研究(4):1-28